



塾生さん、いま何してる？

『作り手としてのスタート』

三月二十三日、神長晃子さんの卒業式がどま工房で開かれました。
神長さんが入塾されたのは三年前。コロナウィルスの流行により入塾式は中止。満足な研修を実施することも難しく、本来二年の研修期間を一年延長し、三年の研修を経てこの度独立を迎えます。
この三年間指導にあたった主任講師の片岡祐士さんは、卒業に向けた言葉としてモノづくりで重要としている以下のことを神長さんに贈り卒業を祝しました。

- 立ち位置を明確にする。
- フェアであることを意識する。
- 楽な方へ。ではなく、常に手を動かす。
- 固定概念にとらわれず、新しいチャレンジと発見を。
- 面倒な事や沢山時間をかけないと成し遂げられない事に価値を見出す。
- しつかり稼ぐ。
- 笑って仕事をする。

「モノづくりが好き」「好きなことを仕事にしたい」と他分野からこの作り手養成塾に入塾された神長さん。当初慣れない木工の加工に不安を覚えていたようですが、講師の指導や職員のサポートにより、一人の作り手として今後は製作に励んでいきます。

毎月
1日発行
森林工芸館
発行



森林工芸館の
あれこれ

置戸町のHPから森林工芸館のページへ移動すると、これまでに発行した「森林工芸館のあれこれ」をご覧ください。

また上記のQPコードからも「森林工芸館のあれこれ」バックナンバーをご覧ください。

森林工芸館・どま工房からのお知らせ

【木あそび展について】

毎年5月の連休に開催していた、木のモノづくりを楽しむ「木あそび展」は、今年も昨年同様に8月の「山の日」の開催を予定しています。

詳細が決まり次第、お知らせしますので楽しみにお待ちください。

【卒業展について】

神長晃子さんの卒業展は4月15日から開催の予定です。ぜひ、3年間の成果をご覧にオケクラフトセンター森林工芸館までお越しください。

今月の一品

かくれた一品 毎日常
おすすめ一品 オケクラフトとともにいる
私たちの一品をご紹介します！



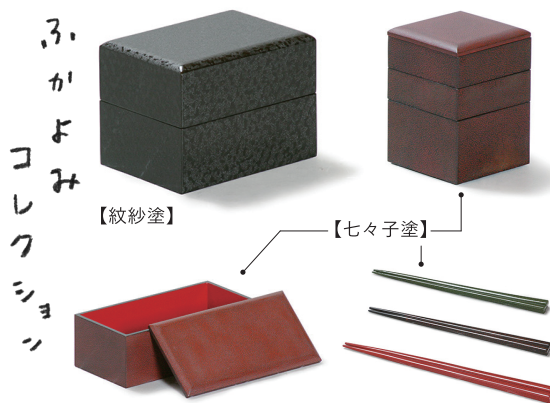
商品名：八角箸
樹種：サクラ、ナラ、カエデ
カバ、アサダ
価格：240mm/1,760円(税込)
220mm/1,650円(税込)
サイズ：長さ240mm・220mm

私がおすすめする今月の一品は、『クラフト工房 木奏』の「八角箸」です。
箸頭から箸先まできれいに八角を保ちながら削られた仕上がりは、丁寧な仕事ぶりを感じさせます。
角が優しく手に当たる持ち手は、程よい太さで持ちやすいです。し、角のある箸先は麺類が滑るのを防いでくれて、魚の小骨もしっかり掴めます。五種類の樹種から選べるのも嬉しいですね。
「八」は昔から末広がりの縁起の良い数字とされています。毎日の食卓に欠かせないお箸。新生活に向けていかがでしょうか。



ショップ販売員
青木

【てまひまかけた手仕事の美しさ - 津軽塗 -】



日本にいくつかある漆器産地の中でも、40 数回の工程を経て 2 か月以上の日数を費やし仕上げられる【津軽塗】。津軽塗は青森県津軽地方で生産される伝統漆器の総称とされ、その最大の特徴である『研ぎ出し変わり塗り』には、【七ツ子塗】【唐塗】【紋紗塗-もんしゃぬり】【錦塗】と4つの代表的な技法が存在します。秋岡コレクションには七ツ子塗、紋紗塗の技法を用いた弁当箱や箸などが収蔵され、その技術の高さを実際に手に取って見るができます。

この【津軽塗】という言葉が生まれたのは1873年(明治6年)。ウィーン万国博覧会に漆器を展示する際、その産地を明らかにするために付けられた名前であるといわれます。そのため塗り自体の歴史はさらに古く、江戸時代にはこの技術を見ることができました。

【七ツ子塗】…「菜種」を用い、小さな輪紋を浮き上がらせる技法

【紋紗塗】…黒漆の模様に紗の炭粉を蒔き、研ぎ出して仕上げる技法

※今日は何を知らるか※